

增補

華希便覽

多  
130  
1-1





美人



先中蓬萊散人佐羅紗便覽といへる書を  
著寸其意詳ありといへる也數品少し因予  
書肆松柏堂是を増補せん事を乞ふ今予  
未中郭鉄茂分ち前編小曳の類を盡し案  
増補華布便覽と題し一巻世に流行し  
寫者汝便と示しぬ

東都金吹丁住家名白子屋久須美孫左工門

更紗便覽之目錄

- 一 更紗の景
- 一 書更紗下地仕様の事
- 一 生懸疋とさよふの事
- 一 藍緋とさよふの事
- 一 雌黄とさよふの事
- 一 黒地の事

一 白く深みきよみの事

一 吹繪仕揃の事

一 令更紗の事

一 更紗書様の事

一 仕上波ひよりの事

一 古英付よりの事

一 急書板の事



地アキ

ワルイ

鳥尾葉頭ハラ生エシ

花生エシ

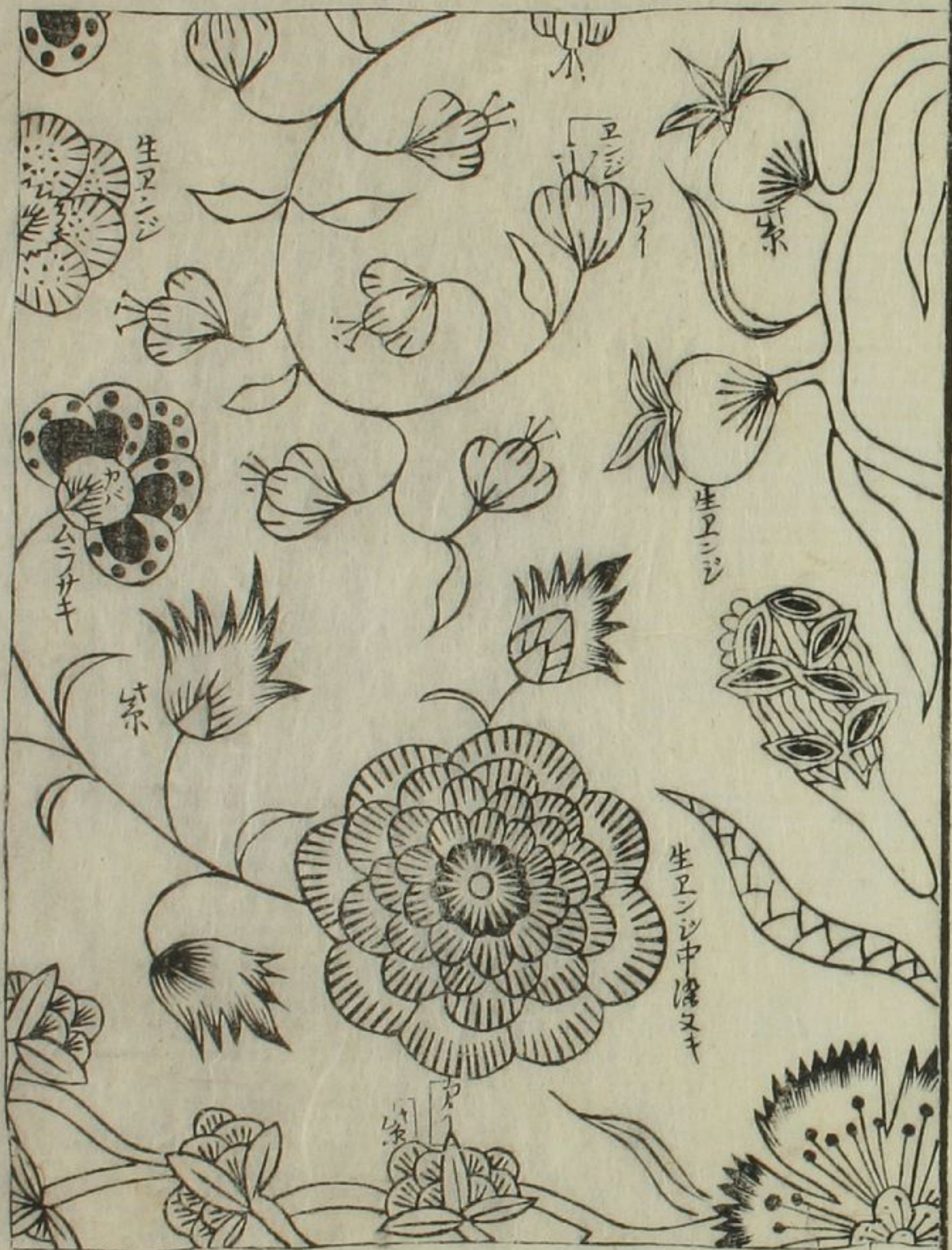


葉ワルイ

一タイヤ金オリ

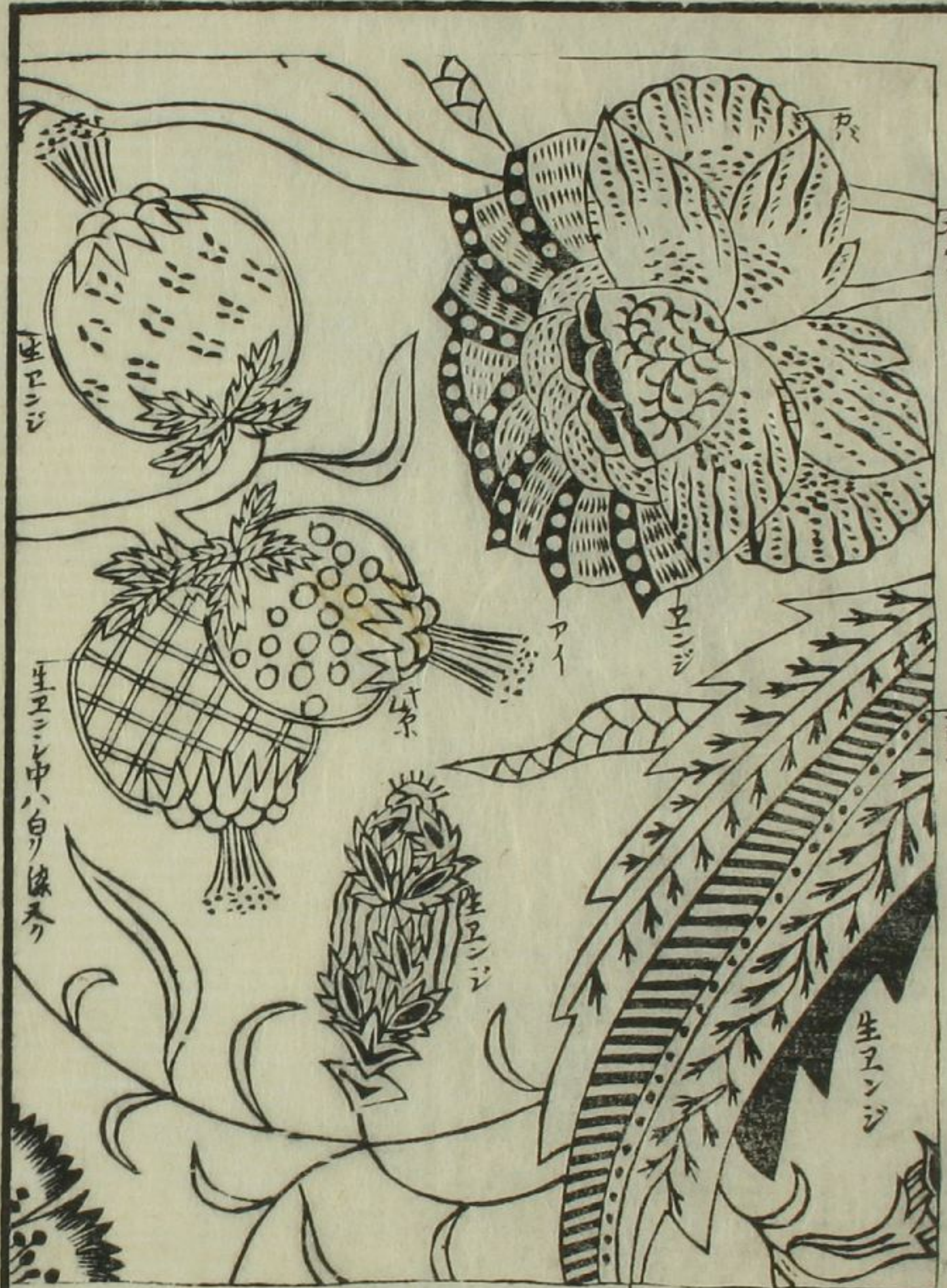
生エシ

更紗



葉ワルノルイモヤキ

黄  
生エンジ中澤又キ



アイニ白ク線又ク

黄  
花ラキ

黄

生エンジ

生エンジ中ハ白ク線又ク

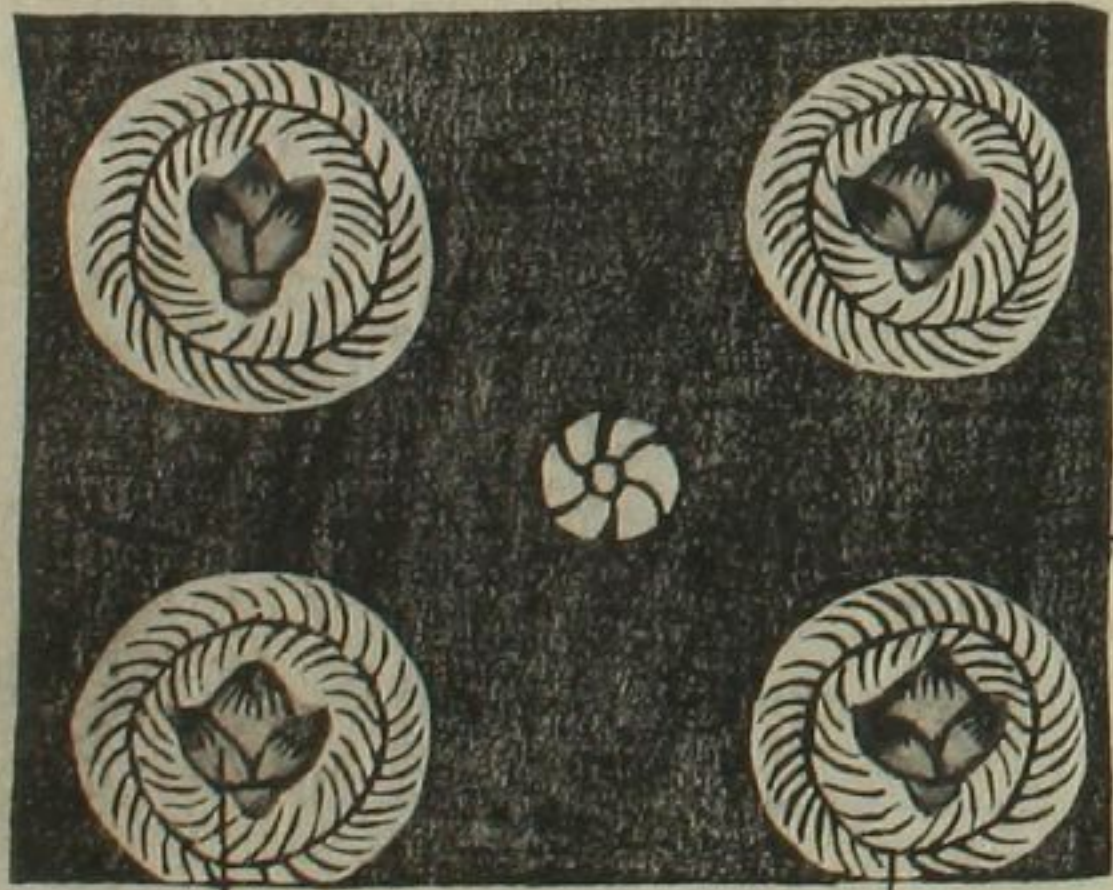


花アイ

玉キ

生エシ

ラヤノ有墨



生エシ中同カ

アイ

ラヤノ有墨



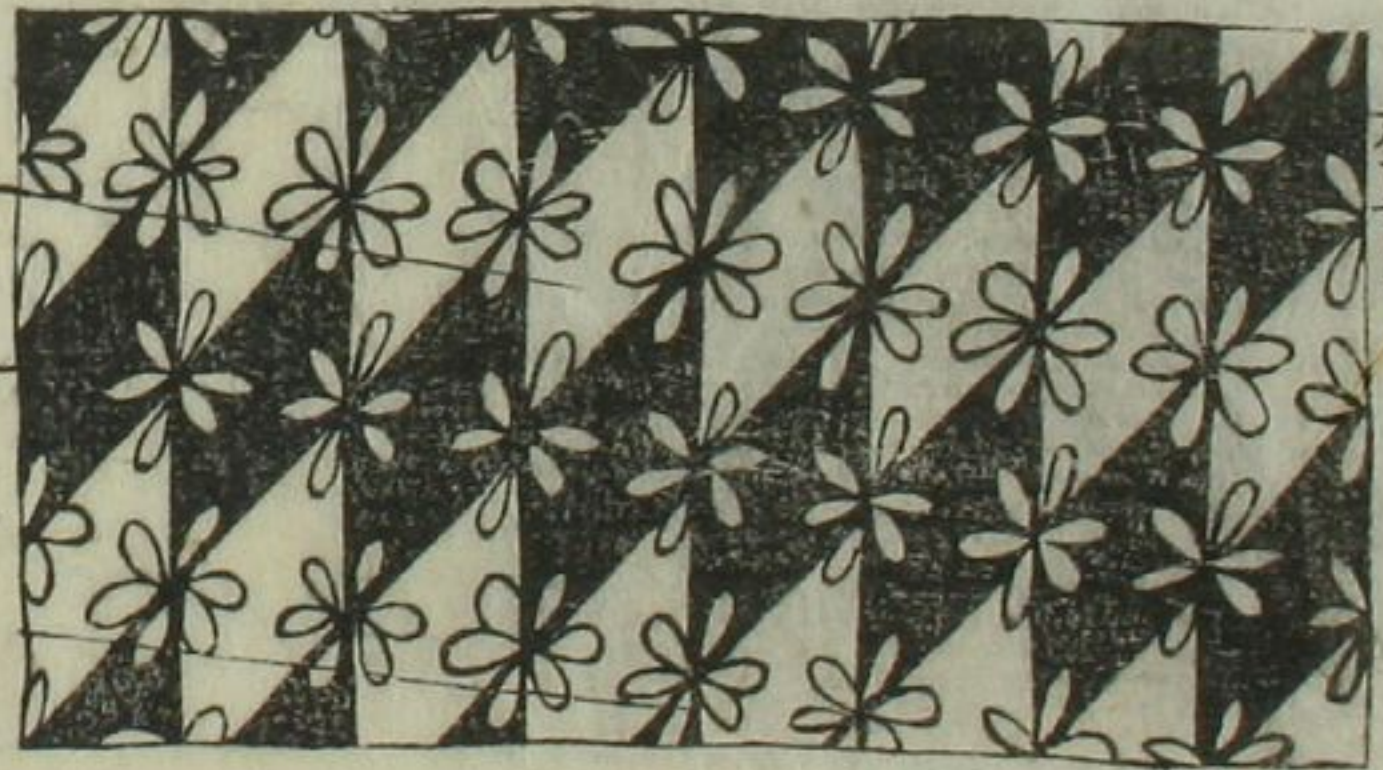
花イリスキアイ

コシ

生エシ中同カ

カ

生エシ



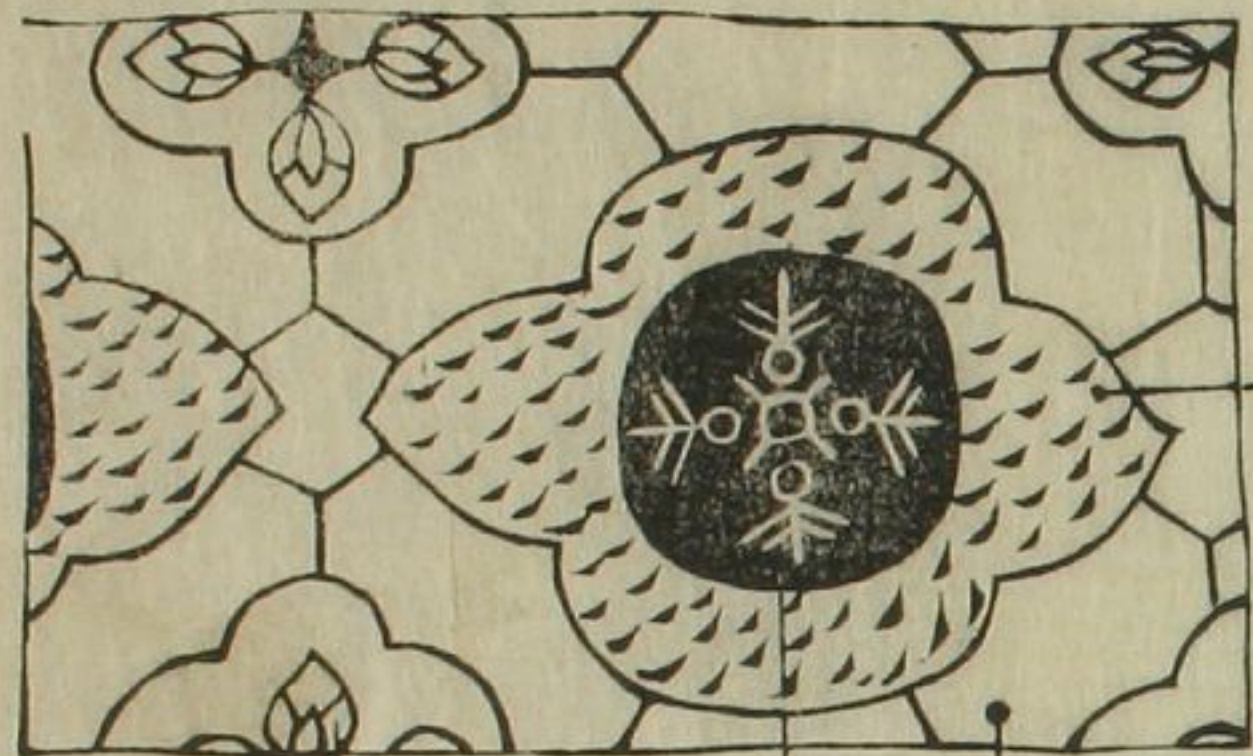
黄

生エシ

アイ

生エシ

ラヤノ細書紫

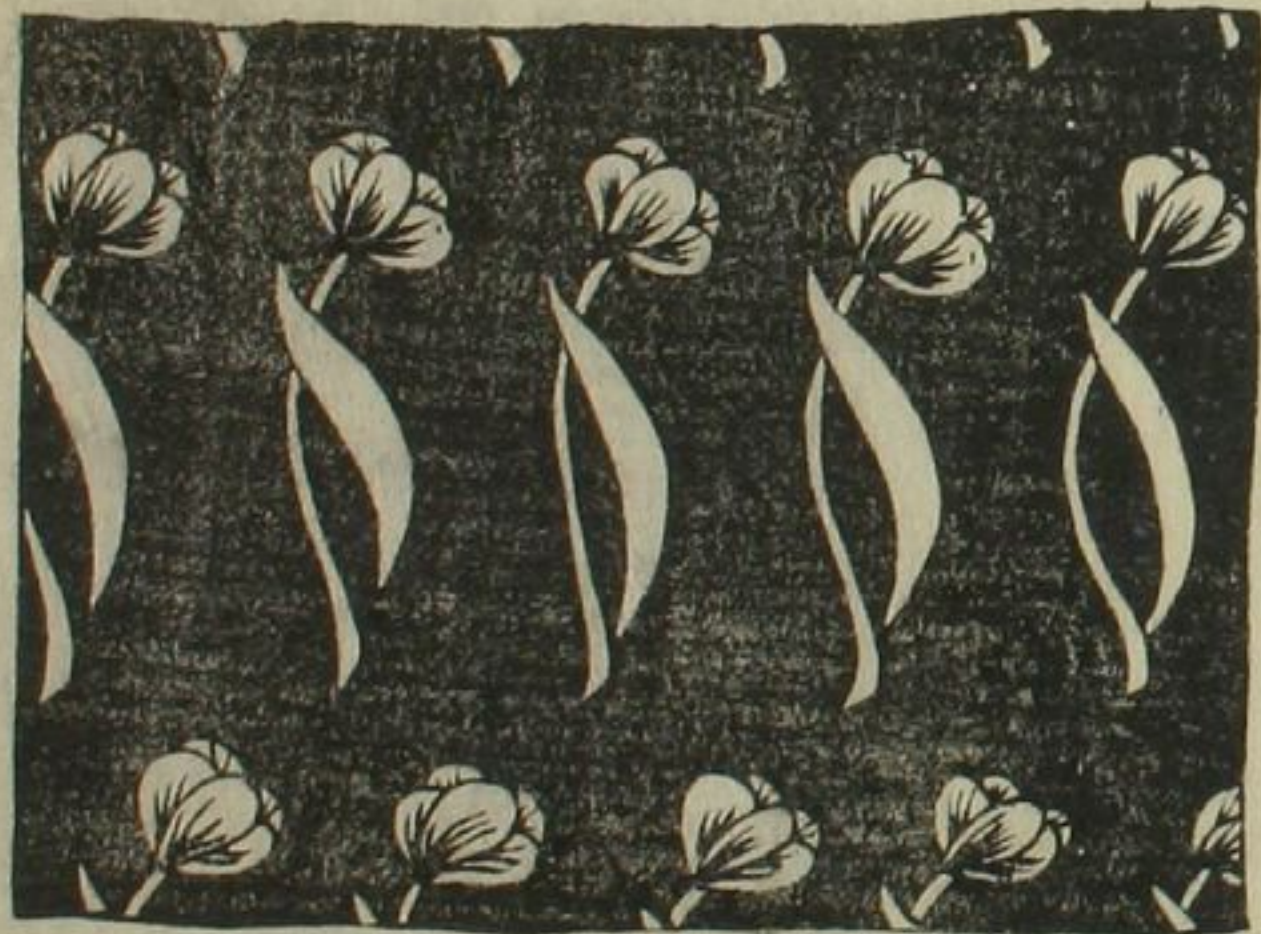


白  
ウ  
ナ  
白

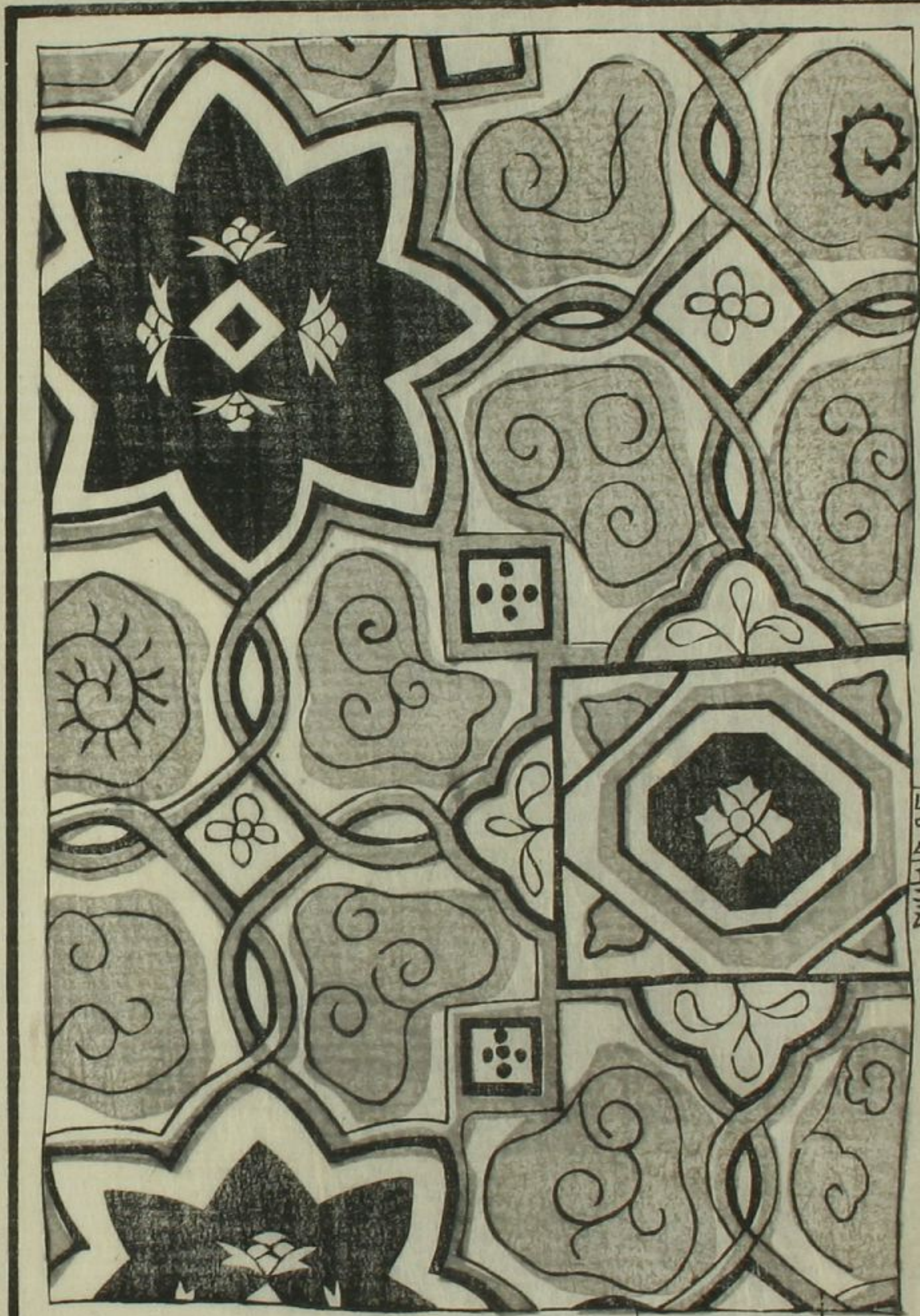
生  
上  
シ  
シ

生  
上  
シ  
シ  
中  
白  
ク  
シ  
ク

細  
書  
量  
ウ  
ナ  
ア  
イ



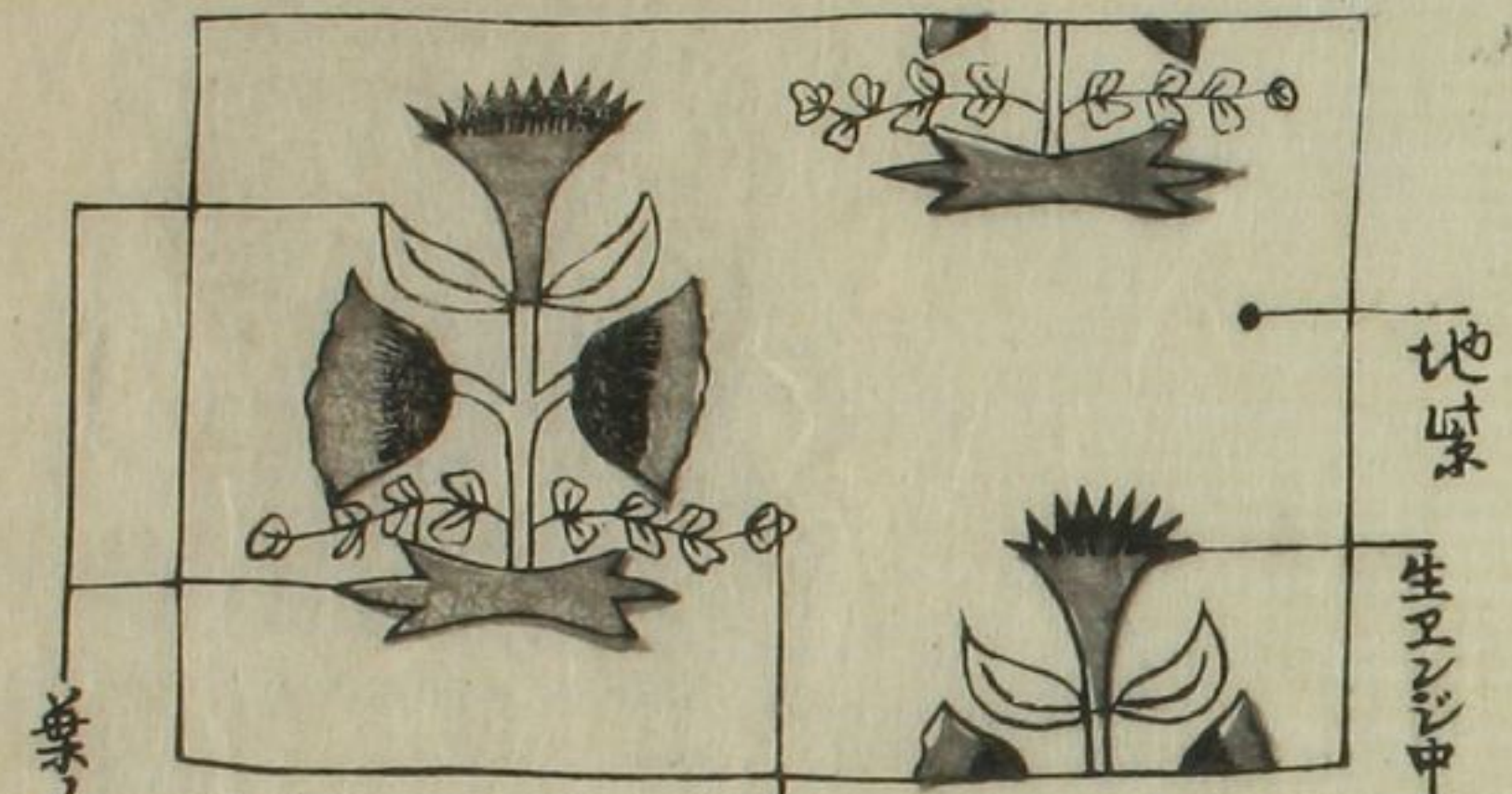
一  
解  
之  
地  
生  
上  
シ  
シ  
花  
白  
之  
生  
上  
シ  
シ  
葉  
ア  
イ  
シ  
ク  
白  
古  
流



中  
不  
我  
ア  
イ

異  
字  
上  
ウ  
生  
上  
シ  
シ

一  
解  
墨



地味

生エシ中ウスク同

黄

葉ノルイアイ



地生エシ

墨

ウス墨ノハエ抄アイ

ルイエカマ  
生エシ



生エシ

生エシ

アイ

イアス

生エシ

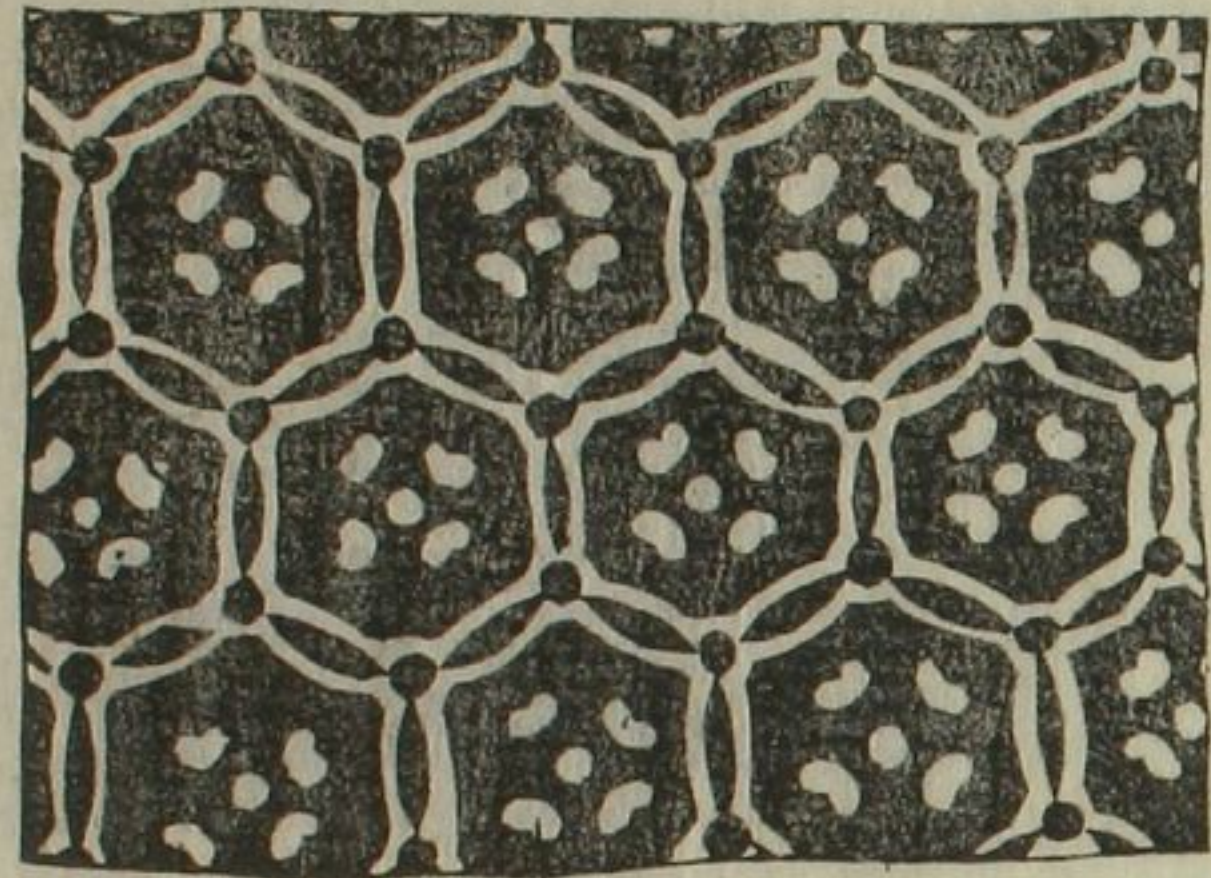
ウスキア

生エシ  
イア  
イア  
生エシ  
アイ  
生エシ  
アイ

生エシ

生エシ  
アイ





福遠石版アイ

地生エシ

ハフチエシ



地ツヤノ有墨

イ

生エシ

アイ

不致龜甲ノ中ヲイニテ為クニ



生エシ

ハウチカバ

カラクサハ生エシニ白ク添ヌリ

イ

生エシ

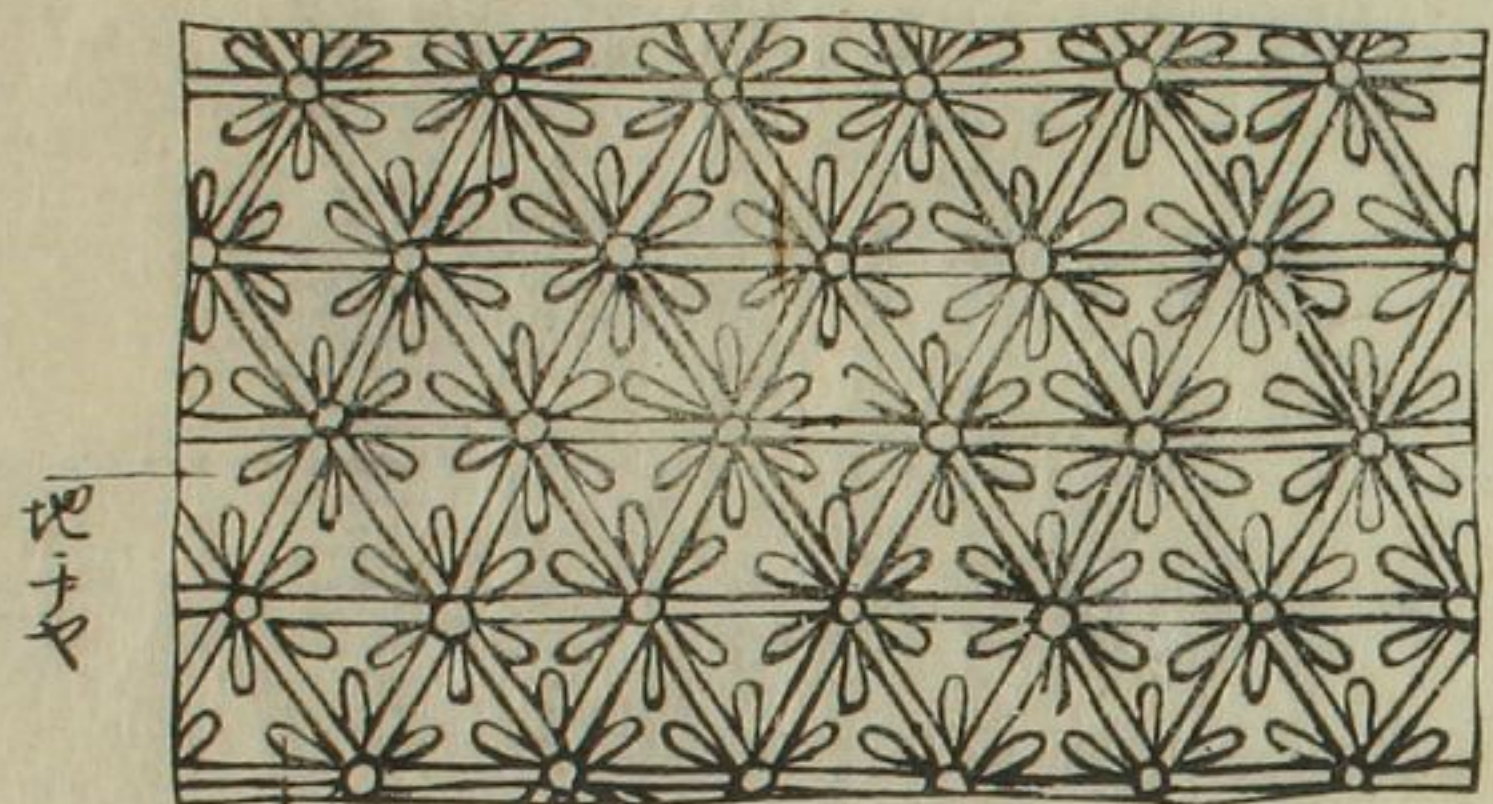
ハクウスク同

生エシ  
ハフチアイ

生エシウスク同

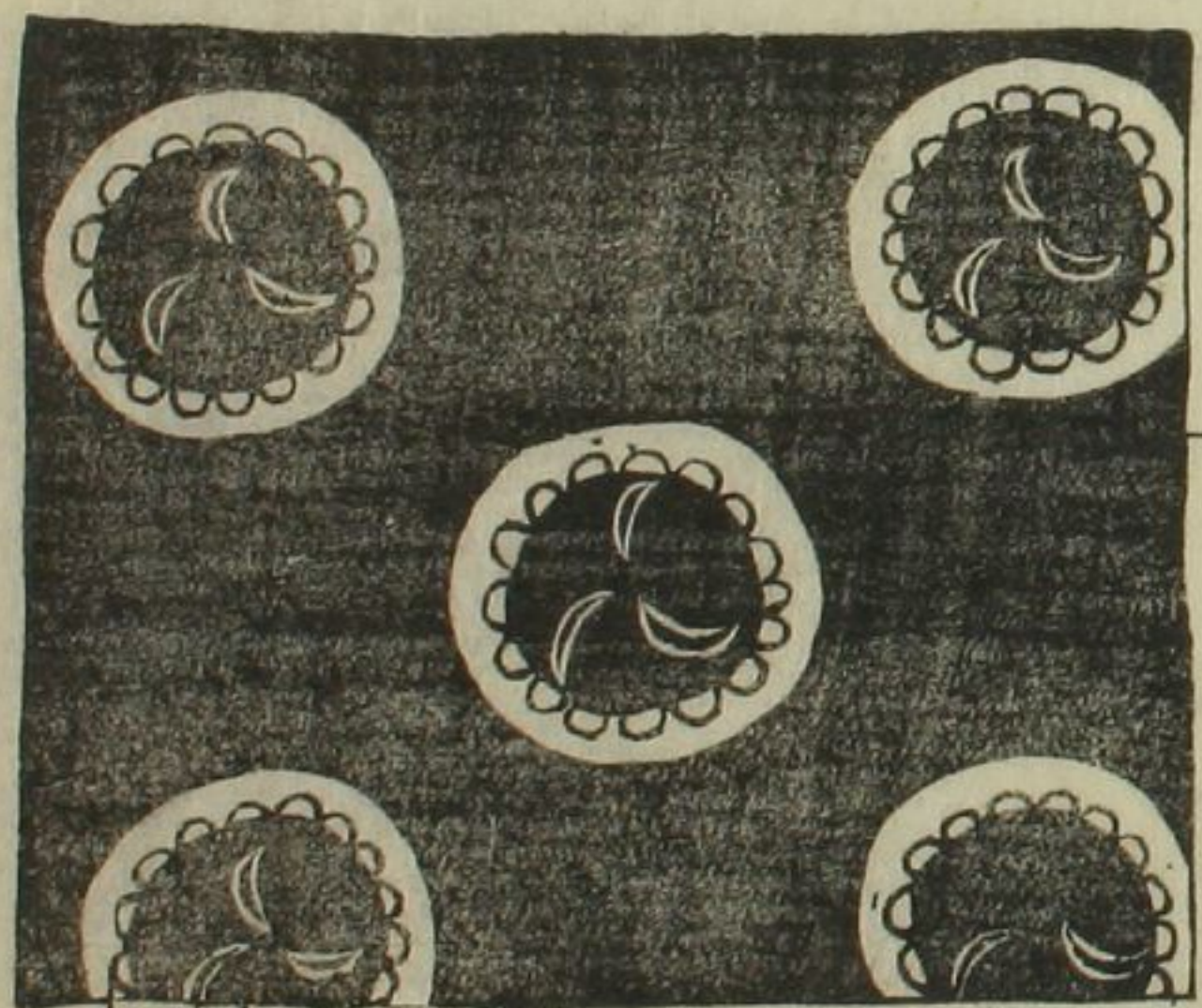
傳目

五



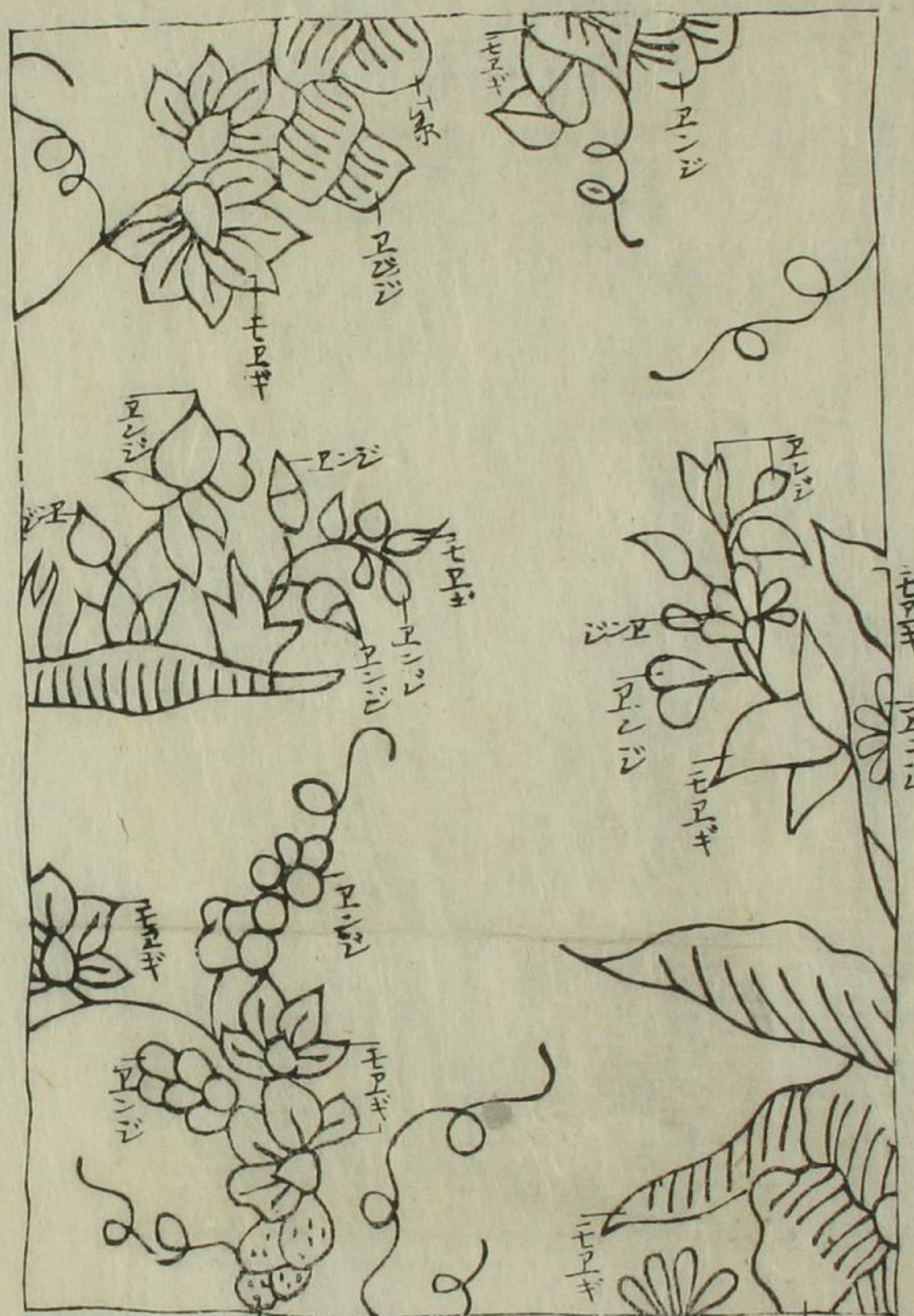
地ナヤ

一タイン細虫緋



地アイン

墨  
生エルビ  
アイン

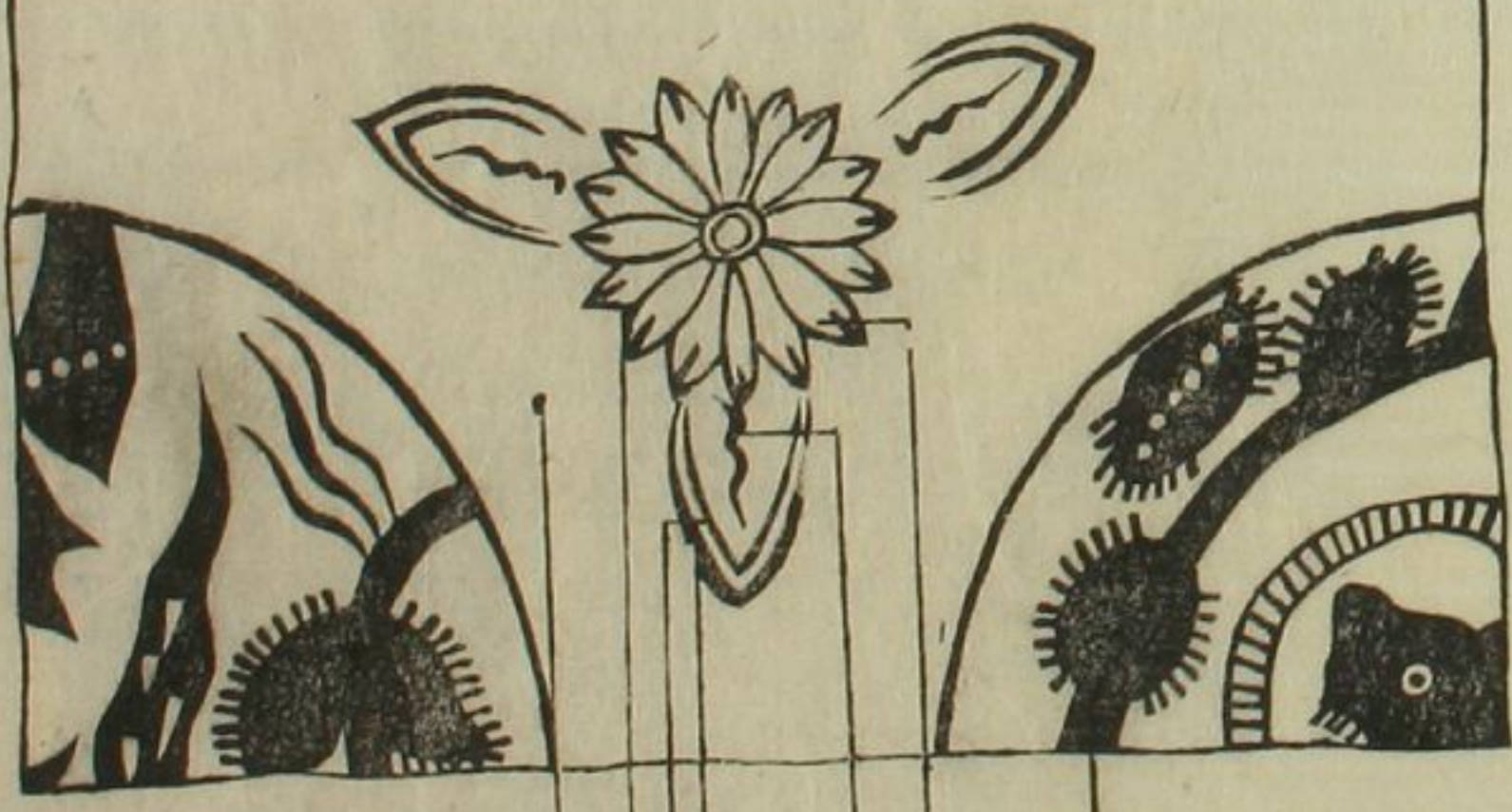


墨エニテ  
虫タル  
正不残  
金ナニ  
ハシ

生エニシ

日

日



以新墨  
 墨 十内ウキ  
 墨 生エニシ  
 墨 生エニシ  
 月 生エニシ  
 地モエヤ



ツルハモユギ

生エニシ  
同  
十ウキ

キヤ

キヤ

ア

生エニシ

生エニシ

生エニシウキウキ

傳

七

便覧



草

ハハアイト  
ハハイト

ハハイトハハイトハハイト

アイト

ハハイトハハイトハハイト

黄

ハハイトハハイトハハイト

黄

草不沙子工

草四分

草

ハハイト

ハハイト

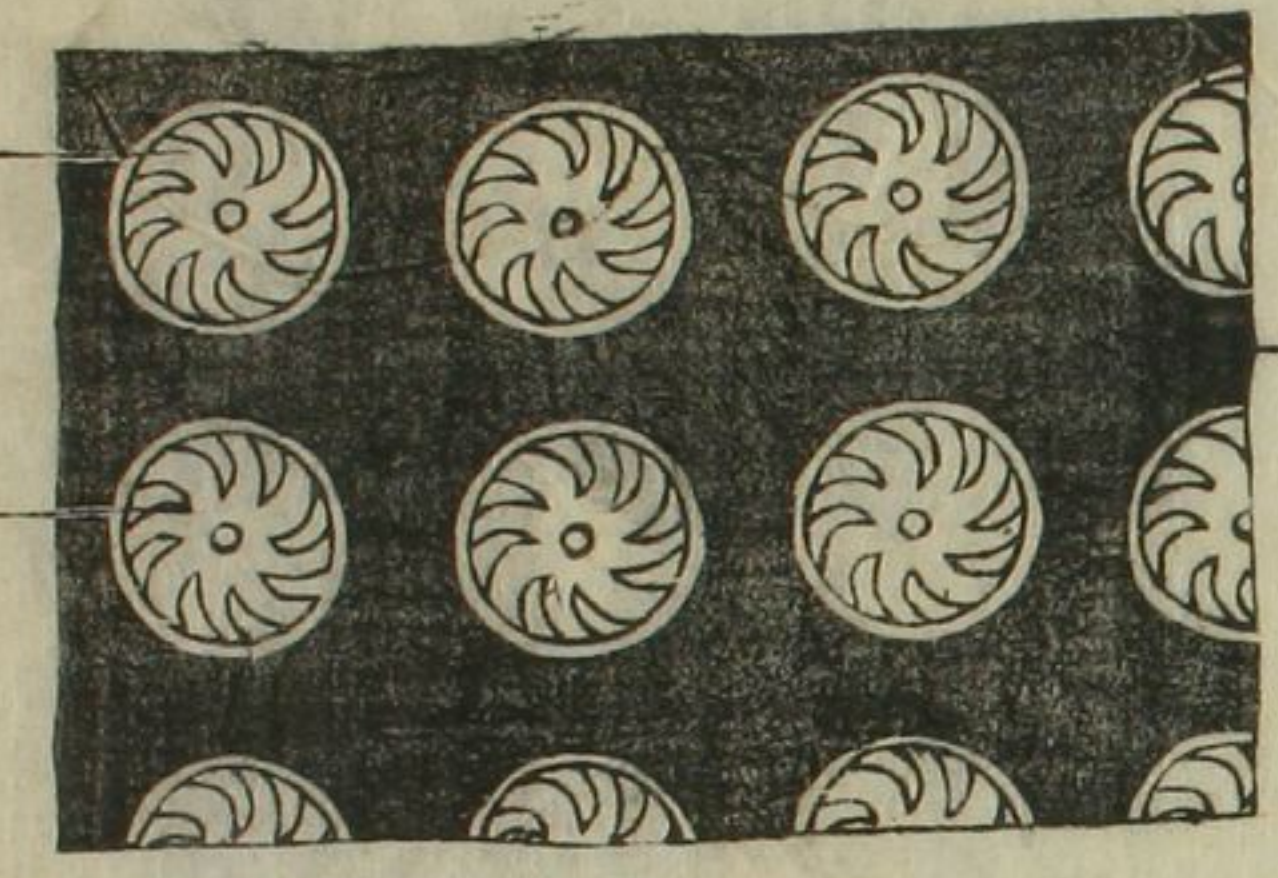
ハハイト

ハハイト

ハハイト

ハハイト

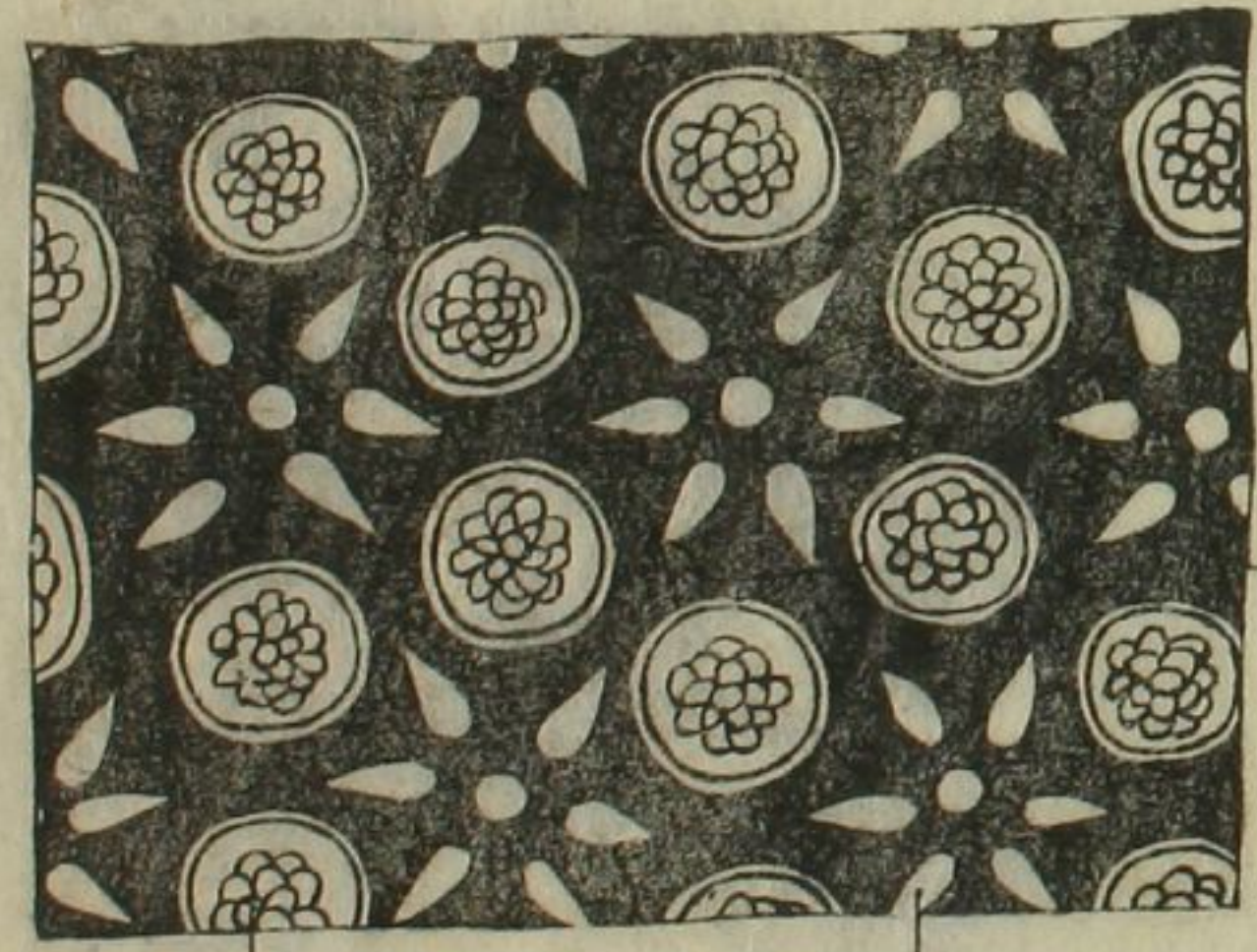
ハハイト



生エシジ

ムニサキ

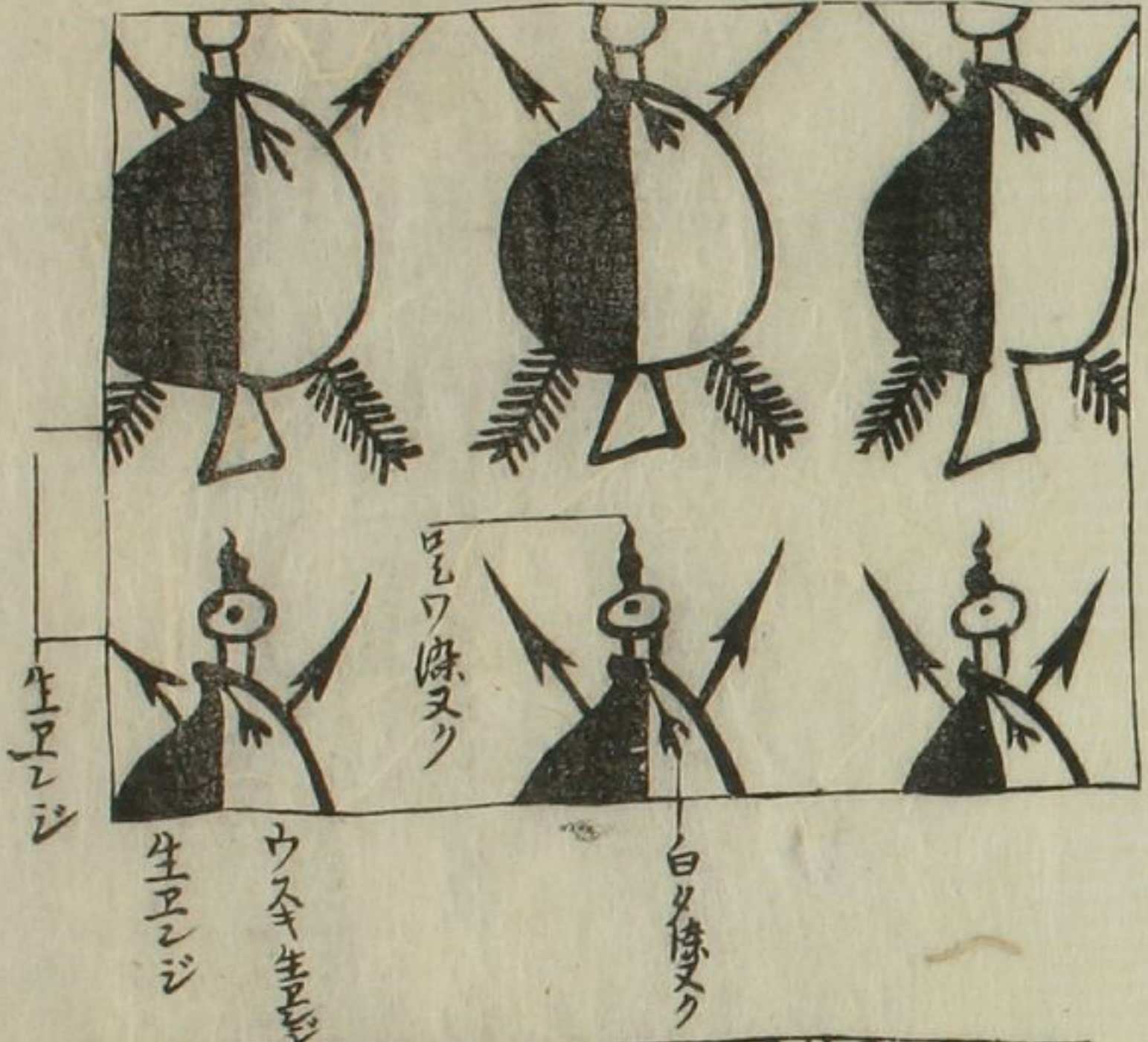
二解ツヤノナキ墨



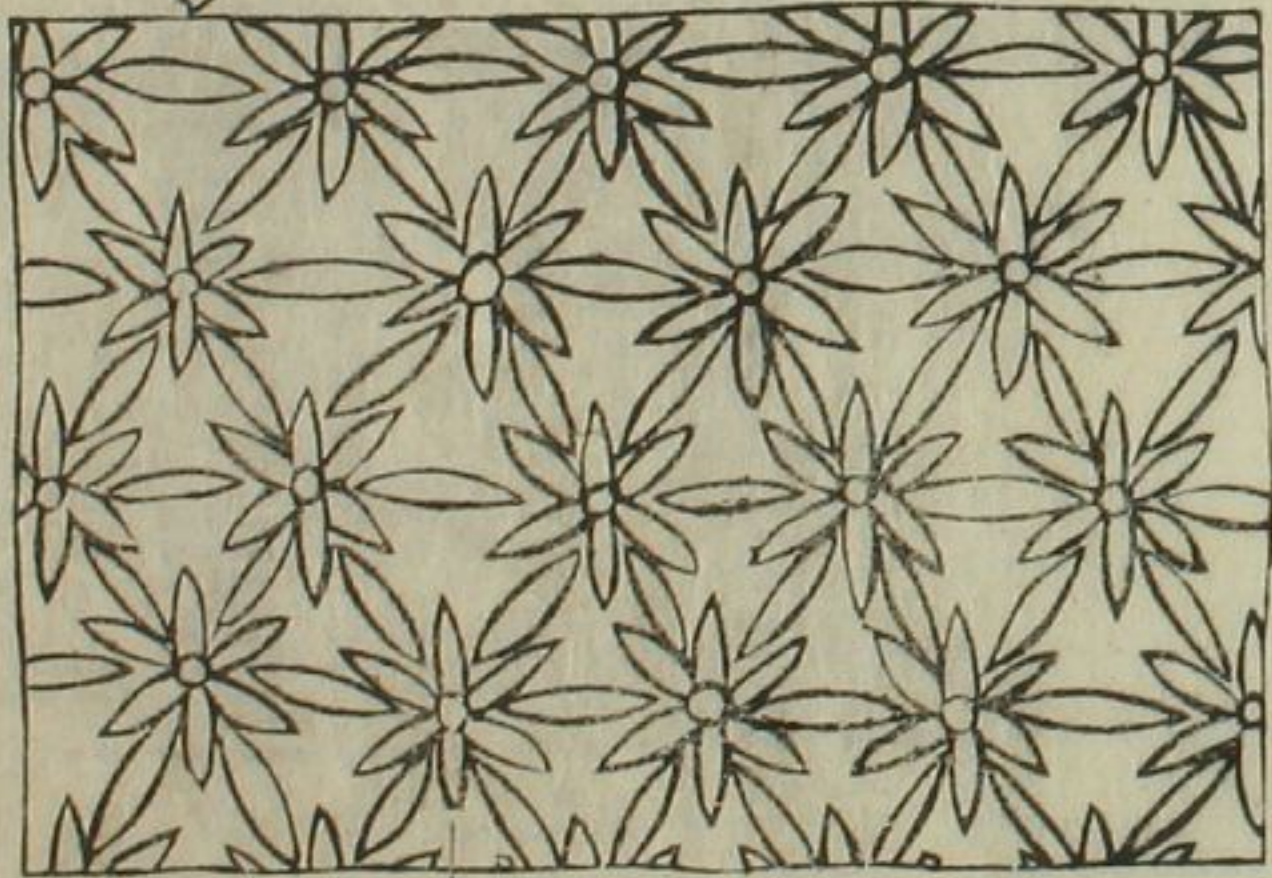
生エシジ

目ク深スク

一タノコキアイ



一タイノ地コビチヤ

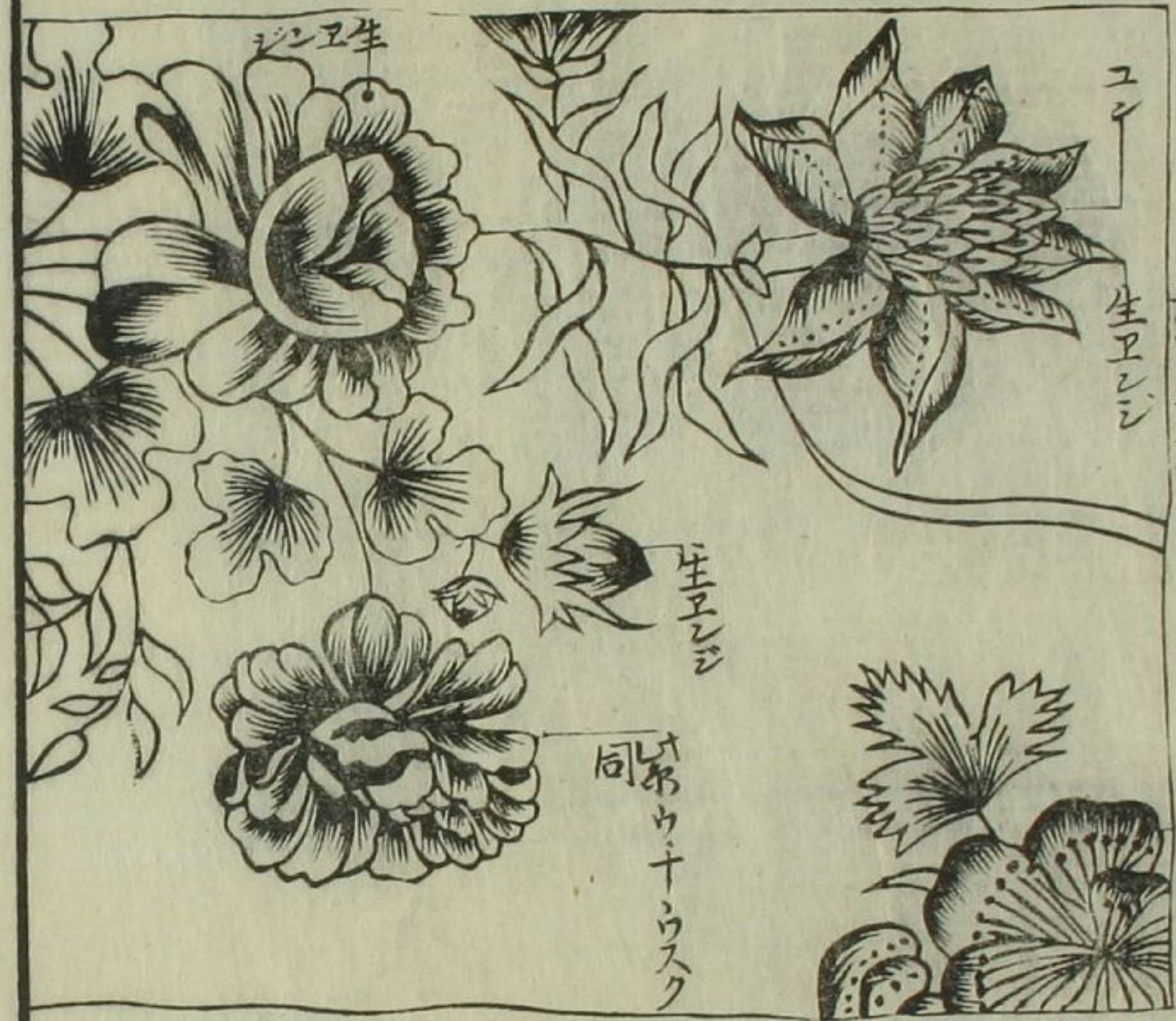


一タイノ細花地チヤ

生エシ



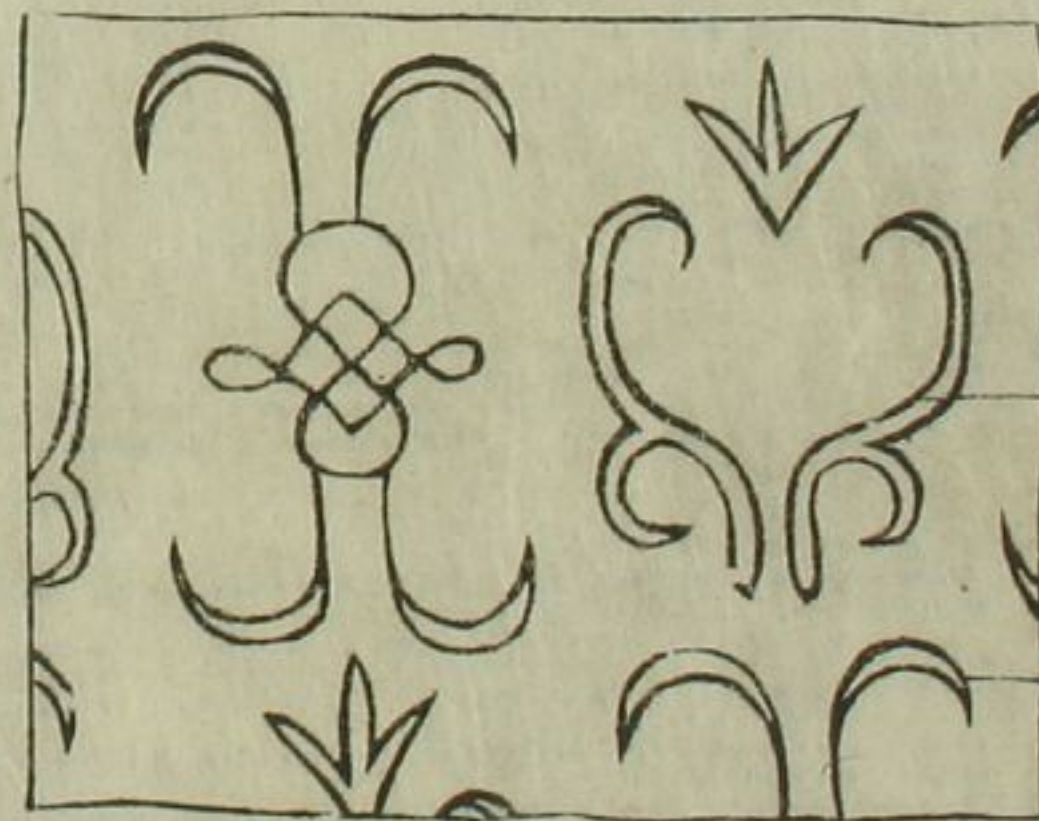
一簪之地生エシ  
花ノルイウスキ生  
エシ  
シノ白  
シノアイトオナカノ  
九キモノノ白ク解ヌク  
細花ハ墨



葉のルモユギ

同  
生花

生花



一  
タイノ地生花  
ニジニテ吹給

白

墨



生花  
中カバ

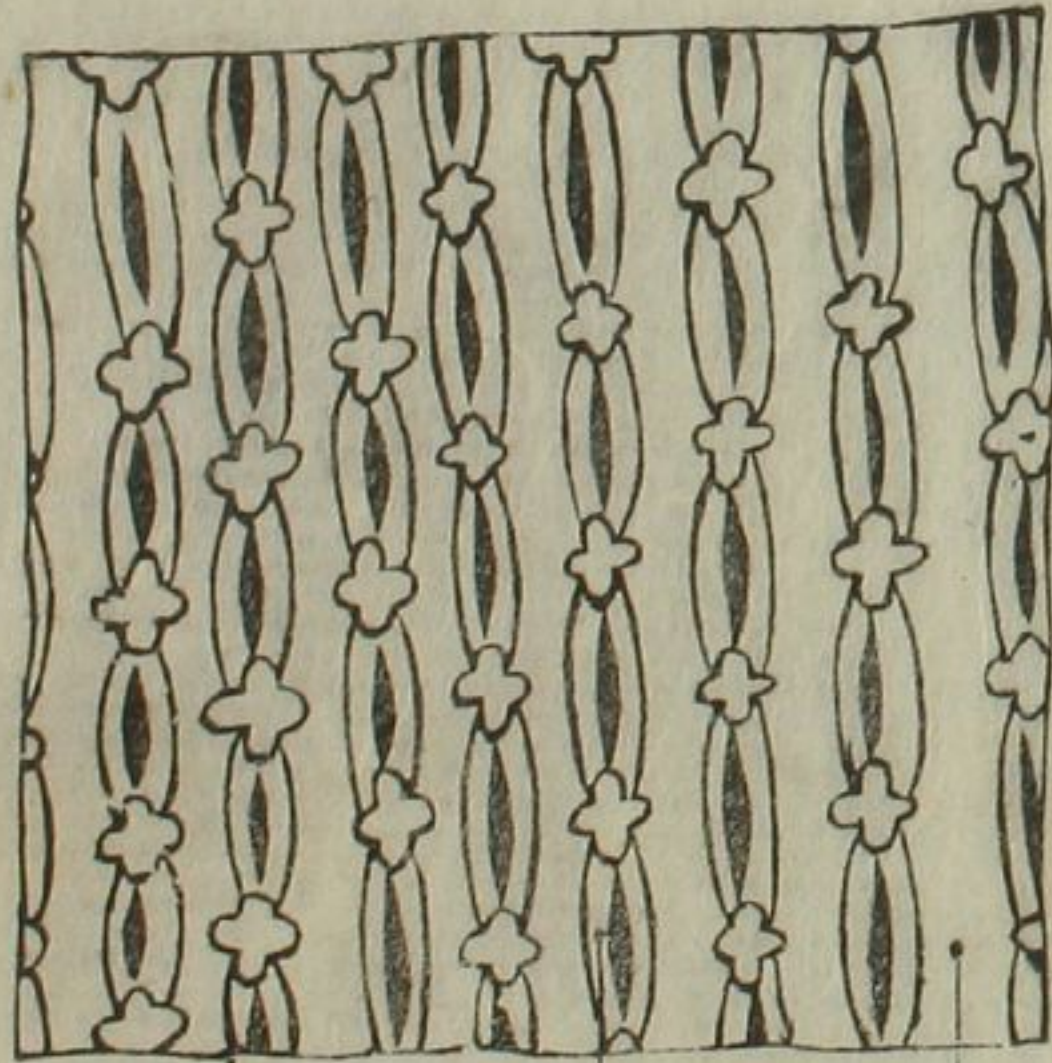


白地ニ不砂アキ

黄  
一タイ細ク虫八墨



生エニシ  
アイ  
生エニシ



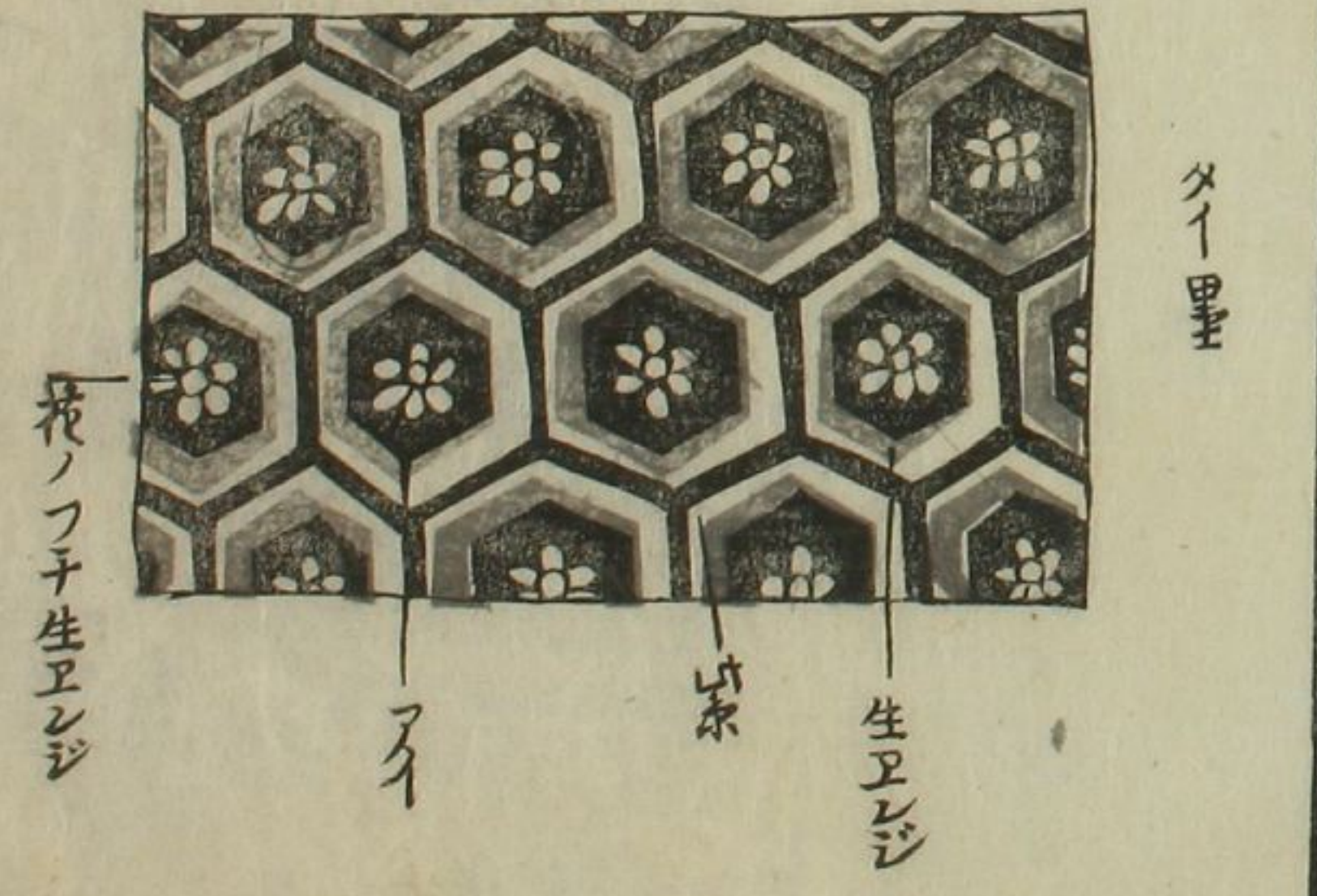
アイ  
生ニ  
地ニ



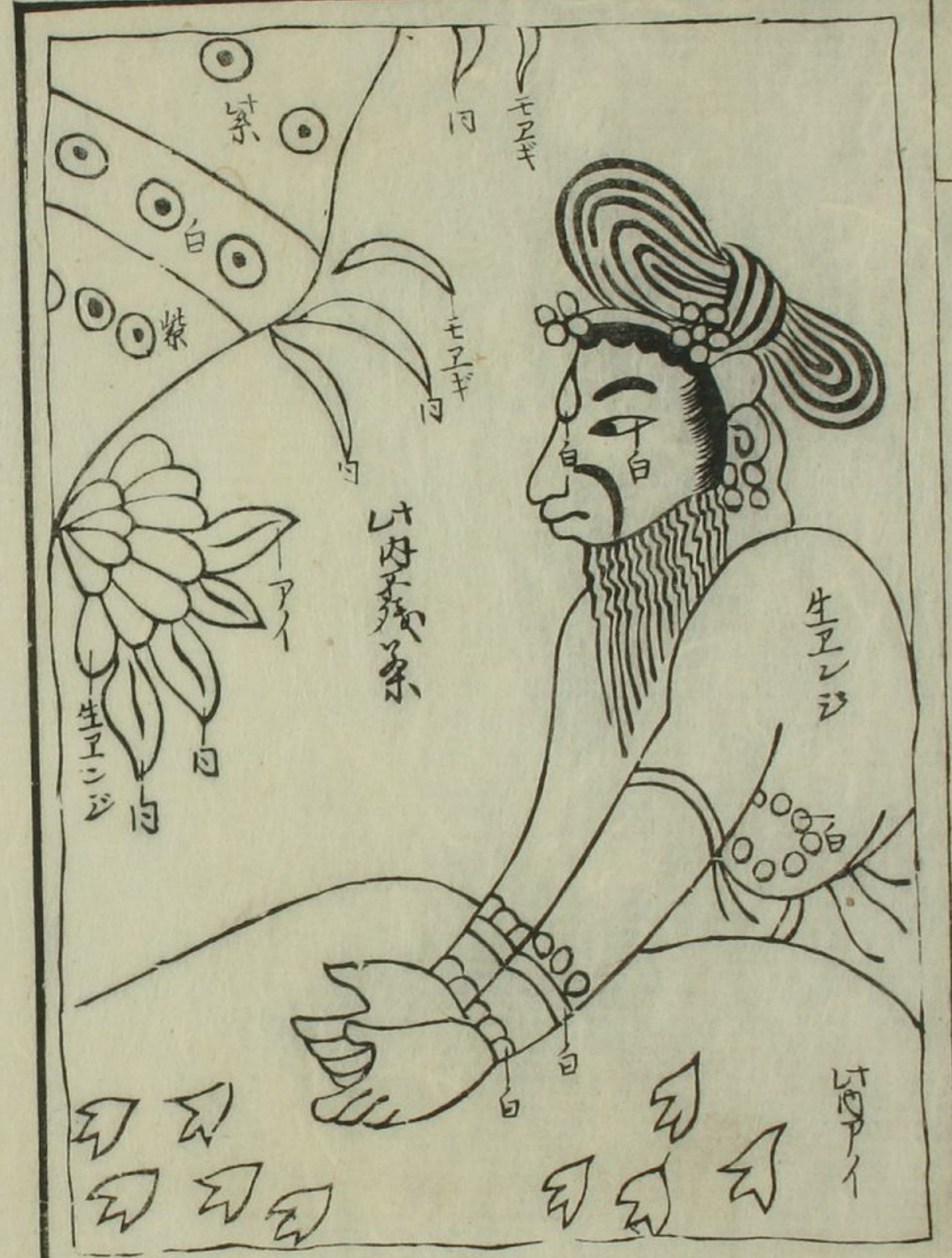
カラクサノイ  
生ニ  
生ニ

生ニ  
アイ

更



俣



拍ノ古



一タイノ細六絛



一タイノ地ア  
ウスキ生エシ

紫

ツルのルイハ白

ユキ生シ

書更紗下地仕極事

更紗をい切れ(書)と忠(お)む先極上のま(ま)の生(ま)と  
 兼(あ)らぬ籠(かご)ふ(け)てぬへ(と)と取(と)りか(か)る兼(あ)らぬ籠(かご)は  
 申(ま)入(い)れ(ぬ)の意(い)へ(生)温(ぬ)と入(い)て兼(あ)らぬ(海)水(みづ)のぬ(ぬ)り  
 ら(る)兼(あ)らぬ(流)れ(なが)れ(ぬ)る(之)又(また)兼(あ)らぬ(籠)の(か)ら(河)川(がわ)に  
 大(お)き(か)の(糸)碇(いと)と(二)つ(ね)を(一)の(糸)碇(いと)母(は)生(ま)温(ぬ)と入(い)  
 火(あ)け(け)り(て)兼(あ)らぬ(右)の(糸)碇(いと)す(ま)は(一)の(糸)碇(いと)  
 之(こ)湯(ゆ)氣(け)の(う)つ(る)か(り)を(れ)と(度)く(眼)の(ま)め(め)バ

既時よ一合がのいれれるなりをる事しとよ何と天  
氣のよき鉛小極との金布と喰一板の上小極古の  
生湯と刷毛出て二二度もひく一志一度とすれ  
干としてのしゆる事

生臘脂中さ極のす

極の生臘脂とこまうに一とよ濃中把入水と  
ふんとして一とどいを漬蒸て強志中を二とを  
る事とよのしゆがの入と極あり極生臘脂と火

ふんけとろくと極さう一候一とりおぶあして  
と水とさうとこをセバ量と強一候極凡を  
下小強一と生臘脂とうすさ一旦一ゆけ天日小  
干分らる事とよの二この入れ由す一候極と上  
くけて乾く候一と天氣とるさ一候入申あは極  
ふて乾く候一

生臘脂とよのしゆる事

一旦水とゆ入と生臘脂と静ふとよ又と

水膠とくし入  
 ておろしを藍の糸にあししてお物の一糸  
 かる川の次と糸考をいへは糸の糸も光糸  
 とよるを次り又新渡の文紗小窓者の糸を藍  
 の糸に紅色へレインスブルーヤウヤウおし  
 ちま何にもありいと申するおの神回小糸  
 平次細のりを糸一向上上の糸の具屋を申  
 ぬし糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸  
 の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

とくして水念の糸に雑成を思入て織くと  
 水膠とくし又結とくし天白にて干好て入申の  
 糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

雌黄の糸

雌黄の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸  
 る八丈糸より雌黄の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸  
 藍を入て黄の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

墨地の事

古紙の墨地合の文紙のりこぶも二色紙を  
 光紙のりこぶも有つやのりこぶと書紙の墨地  
 とすく墨地とすく墨地とすく墨地とすく墨地  
 書紙の墨地とすく墨地とすく墨地とすく墨地  
 墨地の事

白く染ぬる事

白く染ぬる事  
 白く染ぬる事  
 白く染ぬる事  
 白く染ぬる事

と明紙を染ぬる事  
 と入紙を染ぬる事  
 又明紙を染ぬる事  
 右の墨地を染ぬる事  
 うけて焼く事  
 又右の墨地を染ぬる事  
 うけて焼く事  
 うけて焼く事  
 うけて焼く事

又紙中やどら紙細くけ削ふをへり  
若明鑿のきすは紙のなかへ紙のきすは  
か紙能くか紙へり

紙繪仕極はす

紙繪文紗のりく紙へり法り紙も紙風  
紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり  
紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり  
紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり

も紙へり又二まうく紙へり紙と紙へり紙と紙へり  
紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり

合更紗の事

合更紗紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり  
紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり  
紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり  
紙へり紙のきすをきんと紙へり紙へり

ふて一通書乾さし時水膠とさじびに  
と又一通書乾さし母合とさじべし  
らくし合とさじ六指細糸半強を里部  
に所外光彩のまもはるは石のこま

更紙書棟之事

書さし紙の地合ハ極との合布にりる下又細  
も書さしひれど一解紙のまの光彩とさ  
大指ふら書文細地のまもはるは石のこま

更紙書棟のまもはるは石のこま  
細く出りるまの光彩とさ  
の毛ふても同一又小て指紙と濃く書何  
にうすく深きと乾さし何と濃く書  
人形が度子も高生か高か南京更紙合更紙  
満紙のまもはるは石のこま

生臘脩もが 是らうりて 好むは 是の 玉露の  
意と 更して 是らうりて 此の 意に 生臘脩と 更  
か 減りて 是らうりて 黄に けり けり けり けり  
は 生臘脩と けり けり けり けり けり けり けり  
大に 遠る 物か けり けり けり けり けり けり  
といふ こと あり あり あり あり あり あり あり  
深ん けり けり けり けり けり けり けり けり  
さく けり けり けり けり けり けり けり けり

記して 記して 記して 記して 記して 記して 記して  
地と けり けり けり けり けり けり けり けり  
及 けり けり けり けり けり けり けり けり  
右 けり けり けり けり けり けり けり けり  
も けり けり けり けり けり けり けり けり

と流便ながりとまほらままとりるる文紗ぶんしやとすすのの板いたの  
 上のの毛け生せい洗せんとらししてて二にこころろもも管かふふてて指さすす  
 川かわ一いつ面めんにに切きれれのの裏うら面めんととおお島しまにに天てん目めふふてて干かん  
 べべ一いつ指さすすとと鹽しほ又また水みづとと入いれれ込こめめ光ひかり彩さいととおおしし生せい洗せん  
 もも落おちししととおおのの時ときももふふててししりりとと絞しぼりり塗ぬりり板いた  
 吉きちのの名なとと丸まる法はふのの干かんづづ一いついい未み歳さいなな洗せんかかまま  
 丸まるのの事こと物もののの事こと  
 古ふる義ぎ解かいのの事こと

古義解の事

古ふる液えきのの文ぶん紗しやとと書かけけ何なにもも危あやししくく古ふる裏うらのの解かいのの事こと物もののの事こと  
 紙かみぶぶつつみみ焼や火かののううにに法はふををババ身み終しゆととくくすするる  
 むむりり又また急いそにに古ふるびび法はふ解かいるるににハハ松まつ薪まきとと焼や不ふれれ  
 煉ねとと取と切きれれ又また包つつみみ入いれれてて絞しぼりり出でしし水みづ  
 ふふてて文ぶん紗しやとと二にこころろもも深ひら干かんととしし何なに法はふ一いつ古ふる液えきのの  
 上うへのの古ふるりりあるある事こともも二にこころろもも古ふるびびとと結むすぶぶ思おもひひてて  
 板いたの上うへのの毛け小こ口くちふふてて裏うら面めんととららししここももげげれれ自みづか  
 然しかとと切きれれくくにに破やぶれれるる事こともも不ふ買かいのの事こと物もののの事こと





切れとてめて丁字小つねを代の更紗と云ふ之

急書紙のり

急書紙のりとは昔年水に漬けて  
 洗ふとも腐るなり又急書紙のりとは  
 洗ふても面側なる時に和の法有白豆粉に  
 あぐらして紙小とせり入れて能く綴りて切れば  
 て綾紙—金布紙板の上より紙を割て右の汁  
 としして干きよむ其文の如くおまよりする

町明礬とて日くしぬにけしめて糊練の上と筆小  
 て書生臘脂とちまにさがる物也人の得るべし  
 その上と又明礬にして紙で敷度も洗はるる  
 おしぬれど大なる腐れなる事急書紙と  
 急書紙といへりわせども口傳ハ筆紙小述ぐと  
 急書の二風有べし

蓬萊山人 瑞梅 撰  
  


天明四年甲辰

文化五年戊辰求板

書林

京都一條通智惠光院東入

石田治兵衛

同 堀川佛光寺下町

河南喜兵衛

